平成　21　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0492200027		
法人名	医療法人　社団　清山会		
事業所名	ケアホーム　さくらの杜　　ユニット名		
所在地	宮城県柴田郡大河原町字薬師38		
自己評価作成日	平成　年　月　日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	NPO法人　介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4－2－8　テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成　21　年　11　月　20　日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

年齢や障害を越えて共に生活する、認知症が深くなっても障害があっても、互いのよさを引き出しながら生活できるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

本ホームは共生型グループホームとして、敷地内には老健施設、診療所及び保育施設があり、同じ棟内には知的障害者のグループホームを併設している。法人理念は人等との関わりを大切にした自立と共生の支援とし、これを基にホーム独自の理念として「つながる心、広がる笑顔」を掲げている。ホームの現場では、①入居者と障害者や子どもとの日常的な触れ合いと交流、②入居者一人ひとりへ寄り添った職員の姿と入居者の笑顔、③共用空間と居室の清掃は入居者と職員の共同作業が日課など、人との関係性を重視し、役割を通じて生きることへの支援に努めている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名　ケアホームさくらの杜　　)「ユニット名　　」

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「関わりを(人・街・自然)を大切にした自立と共生の支援」ホームケア方針「つながる心、広がる笑顔」。人との関係性を作っていくことが難しくなってくる認知症という障害があっても、できるだけ人との関わりがもてるよう、笑顔が引き出せるよう支援している	法人理念の人等との関わりを大切にし、これを基に独自理念「つながる心、広がる笑顔」を全員で作り上げた。つながる心は人や地域とのつながりであり、入居者の笑顔は実践結果として日々のケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月地域で行われている、ふれあいサロン(お年寄りの集まり)に参加。2ヵ月に一度地区の子供会の廃品回収があるので協力している。その他年間を通して地域の一員として協力できることを行っている。	地域のお年寄りが集まる「ふれあいサロン」や祭り・行事への入居者の参加、地域子ども会への廃品回収の協力、近隣農家からの旬の野菜の提供、地域ボランティアや保育園児の来訪など、地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	GH運営推進会議で、認知症の勉強会を実施。町の認知症サポーターの方の中から、実習希望の方の受け入れ。隣にある認可外保育所の親御さんが夕方迎えに来るが、夕方園児達はホームにいるので、ホームに迎えに来てもらう。自然と認知症の方たちと接する機会としている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年の外部評価の報告を運営推進会議で行っている。防災訓練に参加してもらう機会を作った。	運営推進会議は年6回開催している。10月の会議では防災訓練への住民参加が課題で、参加者に施設の避難通路・設備等の見学案内と夜間の勤務体制等の説明をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町直営の包括支援センター主催の、勉強会には積極的に参加。顔の見える関係性を築いている	ケアマネージャー対象の勉強会に積極的に参加しているほか、町主催の認知症サポーター講習会の講師としても出席している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修会に参加したり、理解を深めるよう努めている。また、身体拘束はしはいことを、職員ご家族に話をしている。	外出傾向の入居者もおり、見守りを徹底し日中は施錠していない。敷地内には診療所があり車の出入りが多いため、入居者が無断外出した場合、事故の危険性もあるので近隣地域との協力も含め対策を検討中である	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待の研修会に参加してし、内部でも研修会の報告会を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は成年後見制度を理解している。必要があれば活用できる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定などの時は、家族会を開催し説明を行い、文章で了解を得るように無ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス評価委員会の中で、ご家族にアンケートを実施。意見を頂き改善できるよう努めている。	ホームでは独自に評価委員会を設け、自己評価と家族アンケートを実施し、質の向上に取り組んでいる。一方、相談苦情の外部の受付窓口として町、県等を周知しているが第三者委員はいない。	第三者委員の委嘱は、前回の外部評価でも課題となっているが、ホームでは運営推進会議のメンバーの中から人選作業を進めて行きたいとしているので、その取り組みを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの開催	管理者と職員の関係は良好で、自由に話せる雰囲気にある。職員は事故防止に敏感で、アクシデントに至らないインシデントも逃さず記録に残している。それをケアにつなげているのは職員の意見の反映である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場のアンケート・メンタルヘルスアンケート・自己評価・自己目標設定・面談など行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修には極力参加できるよう努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮城県GH協議会の研修会に参加したり、法人内でも幾つかのGHがあるので、GH情報交換会を2ヵ月に一度設け、ネットワークつくりや、サービスの向上につなげている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所されてしばらくは、一時間ごとの記録を行い、言葉にならない、不安などに寄り添うよう心がけている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居させることへの罪悪感や心配ごとに耳を傾け安心していただけるよう努めるよう努力する		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご自宅で習慣的に行っていたことなどなれば、継続できるよう支援するよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ屋根の下に住んでいる、知的障害者の方々や隣にある保育園の子供たちとの関わりの中で、協力したりお世話したりする立場がもてるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会・外出・外泊などお願いしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友達と会う機会を設けている	入居者は地元出身が多く、買物先のスーパーや理美容室は馴染みの関係にある。これらの関係が途切れないよう支援している。地域で開催される「ふれあいサロン」は入居者が無二の親友に会える場にもなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お年寄りさんがお年寄りさんへ思わず食事介助してあげる場面など毎日みられるが、職員は見守るようにしている。気持の落ち着いているときはなるべく仲間と過ごせるよう支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	GHから、老健や特養に入居されても、面会にいったり、ご家族と会えば声をかけるようにしている		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴なども踏まえて、集団でありながらも個別性を尊重し、職員の押し付けにならないよう気をつけている	職員は入居者の意向把握には先ず信頼関係を築くことが必要としている。家族と離れ心理面で混乱を抱えている入居者もいる。そのときの不穏な表情を素早くキャッチし、その気持ちに寄り添った個別のケアに努めている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当ケアマネさんから情報を頂くよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスとモニタリングを行っている	介護計画は入居者や家族の意向を確認し、同意を得て作成している。日々の関わりで、例えば、夜間、落ち着きをなくすような変化があれば医師の指導を受け関係者間で話し合い、現状に即した介護計画に変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や申し送りノートで情報を共有する。必要なものは、介護計画の中に取り入れる		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員で声掛け合いながら、柔軟に支援できるよう努めている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域にいるお友達と会っておしゃべりしている時の表情などは、職員には引き出せない表である。こういったお友達と繋がっていけるよう、ご家族と話し合っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居されている方のほとんどが、隣接する診療所の医師であることから連携はしやすい。地域の開業医の先生とも顔が見える関係にはなっている。	従来からのかかりつけ医での受診者もおり、本人や家族の同意を得た7人は隣接の診療所で受診している。診療所は職員、かかりつけ医は家族が付き添っている。受診結果の情報は両者で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同敷地内の診療所・老健と医療連携をおこなっており、常に相談しやすい体制になっている。医療面は手厚く見てもらえていると思う		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ギリギリの状態までGHで過ごされることと、同じ敷地内に老健があるため、入院先の医師もGHではなく老健に入所を勧めることが多い。ご家族も希望されれば、優先的に老健に入居させてもらっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	GHでできる看取りについては、ご家族に説明はしている。しかしまだまだ十分ではないため、法人内でも尊厳ある看取りを行えるよう、指針を見直している最中である。	ホームでは隣接の診療所や老健施設と医療連携を講じており、看取りについて本人や家族に説明している。しかし、家族との間には認識にかなりの差があるので、現時点ではその背景にある尊厳や死生観について家族と話し合うことにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが、全員が訓練を受けているわけではない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した火災訓練は年4回行っているが、水害の訓練は実施していない。地域の協力もまだ不十分であり、今後の課題である。	避難訓練を年4回実施し、災害用伝言ダイヤルも活用している。ホームの火災通報ボタンを押すと敷地内の施設全体に通報されるので緊急の対応ができる。しかし、避難訓練は地域住民の参加がないのが課題である。	運営推進会議を通じて、避難訓練への地域住民の参加について協力を呼びかけており、その理解者や応援者が増えてきているので、実現するようその取り組みに期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、誇りやプライバシーを大切にしたケアをおこなうよう心がけている	本人のペースに合わせたケアに徹している。言葉掛け、接する態度、居室の出入り等は入居者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。特に意識しているのは「えこひいき」はしないことである。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 食事の	言葉で表現できなく行動や態度で示される方も多いので、想いをくみ取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お年寄りさんのペースにあわせて、ドライブや買い物に行きたそうであれば、そのように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の身支度の時など、服を選べる方には選んでいただいている。自分で身支度を気をつけれない方でも、衣類の乱れや寝ぐせなどないよう配慮している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事作りをしている	買物や食事の準備は、入居者と障害者のお互いの力を引き出した共同作業が特徴的である。食事内容は、栄養士（管理者）や調理師（職員）等によって楽しみなものになるよう工夫されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量は毎日確認している。栄養バランスについては、カロリー計算さではしていないが、バランスが悪くないか、管理者（栄養士）が献立を見ている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夜の歯磨きと入れ歯の消毒は毎日行っている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	機能性失禁を防ぐため、排泄時間で声掛けしたり、部屋の環境を整え失敗がないよう努めている	入居者の排泄はチェック表で管理している。おむつ使用者にも個別誘導によりトイレ排泄を支援している。夜間尿漏れがある人にはトイレ（室内にあり）近くにベットを移動し、排尿し易い環境を作っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	精神面・運動・食事・水分など意識して行っている。その他個別で朝の牛乳や、調理にはオリーブオイルを使用するなどの支援を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望にあわせ夜間よくも行っている	入居者の希望に合わせ夜間入浴にも対応している。入浴時の羞恥心、恐怖心、負担感へ配慮し安心してゆっくり入れるよう支援している。入浴を嫌がる場合は信頼関係のある職員が対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して眠る為に、夜間部屋にかぎを掛けて寝ている方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容が変わりやすいので、職員は薬の説明書を意識してみるようにしている。また、副作用が出やすい薬が処方された時は、申し送りノート等で、職員に注意を促すようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作り、草むしり、馴染みの子供たちとの交流、外出など支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や近場の外出は日常茶飯事である。普段はいけないようなところは、年間計画で予定を立てて行っている。	新興住宅地や農地に囲まれ、蔵王連峰も眺望できる。天気の良い日は周辺への散歩が常に行われ、入居者の気分転換にもなっている。11月は希望が多かった定義山参拝に外出し、五感刺激の良い機会となった。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	毎週水曜日にパンやさんが来ていたり、買い物に週3回ほどはでかけるので、その時におやつなどほしい物を自分で購入して頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	残暑見舞いのはがき作りや年賀状つくりをし、ご自分で書ける方は書いて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気をしたり、室温調整に気を配るようししている。また花を飾ったり、写真を飾ったりしている	玄関を入ると、保育園児が書いた「ながいきしてね」という文字が入った樹木の絵に心が和まされる。建物は天井が高く、木材がふんだんに使われ、居心地のよい環境となっている。小上がりのある和室には日本人形や箪笥も置かれ、落ち着いた印象を与えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室や廊下のテーブル席、ホールのソファーなど一人で過ごしたり、職員や気の合うお年寄りさんたちと集う場所を設けている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お位牌や大切な写真など思い思いの物を飾っていただいている	居室は冷暖房完備でトイレもある。家族の写真、位牌、仏壇、家具、テレビ、鉢植え等馴染のものが置かれている。入口には名前がなく、入居者のプライバシーに配慮したもので、その代わり個別誘導を徹底している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋のドアに目印をつけたりしている。		